

地域づくり活動NPO事業助成事業 実績報告

事業区分 (5 4)

団体名	(特非)たけのかぞく	代表者名	(職名) 理事長	(氏名) 丹下 芙蓉
事業名	干し文化を守れ！わかめ干し若返りプロジェクト			

< 事業実施実績 >

年月日 <small>定例は「月1回」 「毎〇曜日」等で記入</small>	場所	参加者 <small>一般 (スタッフ)</small>	活動内容 <small>(勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入) 講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記</small>
販促ミーティング 7/22	たけのかぞく事務所	4 (4)	お土産屋に卸している「竹野浜 天然わかめっ娘」について、竹野の特産品であること そのまま食べられること 親しみやすいことが伝わる販促ポップの内容を話し合った。
ポップデザイン 打合せ 8-9月(全3回)	オンライン	2 (1)	神戸市内在住のデザイナーに初回はポップデザインの仕様を伝え、以後はメールにて先方からのデザイン案とそれに対する修正依頼のやりとりを行った。
漁師との打合せ 7/23・9/2・ 9/25・10/10	たけのかぞく事務所	3 (2)	わかめを採取している磯見漁師と漁師育成講習会「たけの漁師塾」の打合せを行った。漁船や漁業権の取得方法など、当日盛り込む内容について詳細情報を聞き取った。(9/2は漁場撮影)
講習会企画 9-10月	たけのかぞく事務所	1 (1)	漁師から聞き取った情報を講座用にスライドにまとめた。また、当日の漁見学の安全管理や食事内容を取り決めた。企画は移住情報サイト「SMOUT」に参加者募集記事として掲載した。
講習会開催 10/12	たけの観光協会 竹野港周辺	8 (2)	「たけの漁師塾」を開催。座学では、漁法の種類、漁船や漁業権の取得方法、必要な道具や初期費用などを伝えた。その後、漁師と漁船に乗り磯見漁を見学し、帰港後はBBQで交流した。

< 効果と成果 >

わかめ干し文化を守ることにについては、その前提として「わかめを採る漁師（磯見漁師）がいる」ということが必要となる。磯見漁師の高齢化が進む中、今年度は若手の磯見漁師を育成することに重点をおき、講習会「たけの漁師塾」を実施した。講師にはベテラン磯見漁師を招聘し、参加者は定員5名に達した。内訳は既移住者3名、移住希望者2名であった。参加者のうち1名は、小型船舶免許の取得や漁業権の取得に向けて実際に動き出している。

採択意見にあった人件費については、すべて直接事業に関わるものとして計上。特に、漁師塾の開催のための事前聞き取りや船上での現地取材・撮影、スライド資料化、ウェブサイトへの参加者募集記事作成には相当の時間を割いて業務にあたった。

また、「天然わかめっ娘」の販促物のポップについては結果として予定していた金額を下回ったが、販促物として効果的なものが仕上がり、既に取扱い店舗に配布し活用されている。わかめ干し事業を「持続可能な事業」として次世代から認識してもらうためにも、付加価値をつけた加工品の生産およびその販売促進は重要と考えている。

< 今後の展望 >

前述したとおり、磯見漁師として技術を取得するには時間がかかるため、生業と言えるレベルに達するのは容易なことではない。そのため、今年度の「たけの漁師塾」では磯見漁師と兼業できそうな生業をいくつか紹介することで、新規参入を検討している場合は他事業との複合的なプランを立てるよう提案した。

漁師塾の参加者のうち1名が来春には漁業権を取得するために既に動いている。来年度以降は、この新たな漁師の挑戦に密着することにより、その課題を洗い出し、さらなる新規漁師の育成や移住につなげていきたい。

< 収支決算書 >

(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動NPO事業助成金	400,000
自己資金等	1,500
合 計	401,500

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直 接 経 費	人件費	252,000	252,000
	委託料	64,000	64,000
	謝金	80,000	80,000
	小 計	396,000	396,000
間接経費 (一般管理費)		5,500	4,000
合 計		401,500	400,000